

検体の作製基準

対象のがん種

検体の種類

固形がん

FFPE検体

FFPE検体作製

- 固定には、10%中性緩衝ホルマリン溶液を用いてください。6～72時間浸漬固定することを推奨します。
- 酸脱灰操作は行わないでください。脱灰が必要な場合は、EDTAを主成分とする中性脱灰液を使用してください。

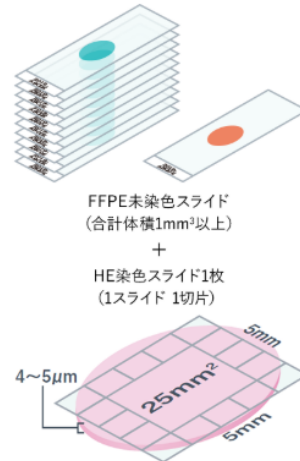
スライド作製

< 必要検体量 >

- FFPE検体のHE染色スライド1枚と未染色スライドを作製してください。
- 未染色スライドは厚さ4～5 μ mの切片を合計体積として1mm³以上*となるように作製してください。
*表面積25mm²以上の場合は、厚さ4～5 μ mの組織切片を10枚作製してください。
表面積25mm²未満の場合は、切片の合計体積が1mm³以上になるように、未染色スライドを10枚以上作製してください。

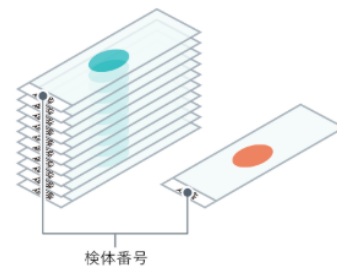
< その他の注意点 >

- 未染色スライドは正電荷スライドグラス(剥離防止コートスライドグラス)を用い、伸展・乾燥のための加熱(ベーキング)は避けてください。
- 1枚のスライドには、一つの切片のみとし、全て同一のブロックから薄切してください。
- 未染色スライドが10枚未満の場合は、検査を受け付けることができません。
- FFPE検体は、薄切後12ヵ月以内のものを使用してください。



< 検体番号の記載 >

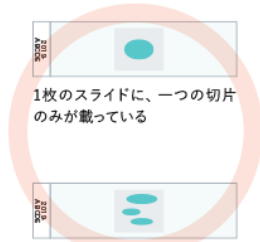
- 全てのスライドに、同一の「検体番号」を記載してください。
 - 検体番号は、医療機関で付与していただく番号です。
 - 半角英数字、及び禁止文字以外の記号で20文字以内で記載してください。
 - 患者さんの個人を特定できる情報(氏名)は記載しないでください。
- 検体番号に、枝番を記載することは推奨しません。
- 衛生検査所の検体集荷員が、以下の記載不備を見つけた場合、問合せ・修正依頼をさせていただきます。修正いただけない場合、集荷を見合わせることをご了承ください。
 - スライドに検体番号の記載がない場合
 - スライドの検体番号の記載に誤りがあった場合
 - スライドに個人が特定できる情報が記載されていた場合



< スライド上の切片数 >

- 1枚のスライドには、一つの切片のみを載せてください。1枚のスライドに複数の切片が載っている場合は、検査を受け付けることができません。

< 受け付け可能な例 >

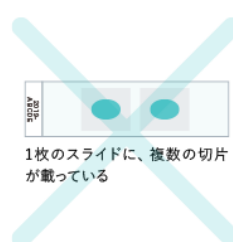


1枚のスライドに、一つの切片のみが載っている



針生検検体の場合、一つのブロックに同時に採取した複数のコアが包埋されている

< 受け付け不可の例 >



1枚のスライドに、複数の切片が載っている

< 使用ブロック >

- 同一のブロックに由来した薄切切片を使用してください。異なるブロックから作製したスライドが組み合わされている場合は、検査を受け付けることができません。

< 受け付け可能な例 >



同一ブロックから作製したスライドの組み合わせになっている

< 受け付け不可の例 >



異なるブロックから作製したスライドの組み合わせになっている

腫瘍細胞割合

- 有核腫瘍細胞の割合(マクロダイセクション*1後の領域として)

最適:30%以上*2

最低:20%以上

*1 マクロダイセクションはFMIで実施するため、医療機関での実施は不要です。

*2 肝細胞のDNA量は他の体細胞の2倍であるため、検体が肝組織の場合はより多くの腫瘍細胞割合が必要です。

腫瘍細胞の不足等により、検査を実施できないこともあります。